



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月29日

上場会社名 株式会社カワタ 上場取引所 東
 コード番号 6292 URL <http://www.kawata.cc/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白石 亙
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 原田 恭子 (TEL) 06-6531-8211
 四半期報告書提出予定日 2021年11月9日 配当支払開始予定日 2021年12月7日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	8,450	△2.8	289	△3.3	314	11.7	159	20.8
2021年3月期第2四半期	8,695	△23.2	299	△67.9	281	△69.2	131	△77.6

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 458百万円(—%) 2021年3月期第2四半期 27百万円(△94.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	22.83	—
2021年3月期第2四半期	18.66	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	20,804	10,973	51.8
2021年3月期	20,911	10,621	49.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 10,775百万円 2021年3月期 10,427百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2022年3月期	—	15.00			
2022年3月期(予想)			—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,700	11.4	830	64.0	780	30.6	510	72.0	73.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 1社 (社名) レイケンタイランドCO., LTD.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年3月期2Q	7,210,000株	2021年3月期	7,210,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	233,849株	2021年3月期	233,849株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年3月期2Q	6,976,151株	2021年3月期2Q	7,064,563株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3頁「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8
3. その他	9
(1) 生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、ワクチン接種の普及に伴う行動制限の緩和等により景気回復の進展がみられた先進国と、ワクチン接種の普及遅れや医療逼迫等により景気回復に遅れが生じている新興国等との間で二極化が進みました。

わが国経済も、新型コロナウイルスの感染再拡大により、度重なる緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の実施が続くなど、先行き不透明な状態が続きました。一方、設備投資の動向を知るうえで先行指標の一つである機械受注統計の推移を見ると、製造業の機械受注額は、2020年10月～12月は10,703億円（前年同期比0.8%増）、2021年1月～3月は10,472億円（同0.8%増）、4月～6月は11,736億円（同26.5%増）、7月は4,310億円、8月は3,731億円と徐々に回復基調にあります。

このような環境下、当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として、引き続き各セグメントが属する国の状況に応じて時差出勤や在宅勤務等を実施しながら、プラスチック成形関連のコアビジネスにおきまして、品質の向上、納期の確守、新製品の開発等、競争力強化によるマーケットシェアの拡大を図るとともに、電池、食品、化粧品等の新規販売分野の開拓・拡大に注力してまいりました。

この結果、受注高は前第2四半期を底として増加に転じ、当第2四半期は前年同期比33億2千1百万円増（同44.4%増）の108億1千万円となり、受注残高につきましても前年同期比22億7千1百万円増（同46.1%増）の71億9千7百万円となりました。一方、当年度の受注高は着実に増加しているものの、前年度末の受注残高が少なかったこと等により、売上高につきましては、前年同期比2億4千4百万円減（同2.8%減）の84億5千万円となりました。

損益面では、材料費を中心とした原価低減や諸経費の削減等に努めたことなどにより売上総利益率は改善（26.3%→28.2%）しましたが、営業利益は前年同期比9百万円減（同3.3%減）の2億8千9百万円、経常利益は為替差益2千3百万円（前年同期は3千1百万円の為替差損）の計上等により前年同期比3千2百万円増（同11.7%増）の3億1千4百万円となりました。

特別損益では、投資有価証券評価損1千万円、子会社清算損4百万円を特別損失に計上し、更に法人税、住民税及び事業税6千1百万円、法人税等調整額7千5百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比2千7百万円増（同20.8%増）の1億5千9百万円となりました。

日本におきましては、新型コロナウイルスの感染再拡大により度重なる緊急事態宣言の発出等があったものの、日用雑貨や容器・物流関連の受注は引き続き堅調に推移しました。一方、自動車関連については前年度末の受注残高が少なかったことから、売上高は前年同期比9億7千8百万円減（同16.1%減）の50億8千6百万円となりました。損益面では、売上高の減少に伴う売上総利益の減少等により、営業利益は前年同期比3億1百万円減（同53.1%減）の2億6千5百万円、セグメント利益（経常利益）は前年同期比2億7千1百万円減（同46.7%減）の3億9百万円となりました。

東アジアにおきましては、米中貿易摩擦は依然として改善されないものの、新型コロナウイルスの感染者数を抑制している中国では景気回復は堅調に推移しており、自動車関連を中心とした受注増により、売上高は前年同期比5億5千8百万円増（同22.8%増）の30億5百万円となりました。損益面では、操業度の改善に伴う売上総利益率の改善（17.5%→25.3%）と売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は4千4百万円（前年同期は1億7千9百万円の営業損失）、セグメント利益（経常利益）は2千1百万円（前年同期は1億9千6百万円の経常損失）となりました。

東南アジアにおきましては、変異株の発生に伴う新型コロナウイルスの感染拡大等により景気回復に遅れが生じておりますが、一部地域では設備投資の持ち直しの動きが見られ、売上高は前年同期比1億1千5百万円増（同16.0%増）の8億3千3百万円となりました。損益面では、売上総利益率の改善（27.9%→32.6%）と売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は4百万円（前年同期は6千8百万円の営業損失）、セグメント利益（経常利益）は1千万円（前年同期は6千2百万円の経常損失）となりました。

北中米におきましては、メキシコでは半導体不足による自動車関連を中心とした製造業の減産等が続きましたが、アメリカでは新型コロナウイルスに対するワクチン接種や行動制限の緩和が進んだこと等により、売上高は前年同期比5千6百万円増（同149.0%増）の9千4百万円となりました。損益面では、売上総利益は改善（28.1%→30.2%）したものの諸経費の増加等もあり黒字化するには至らず、営業損失が3千8百万円（前年同期は4千3百万円の営業損失）、セグメント損失（経常損失）が3千5百万円（前年同期は6千万円の経常損失）となりました。

なお、報告セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおり、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて、現金及び預金、仕掛品が増加しましたが、受取手形、売掛金及び契約資産、商品及び製品が減少したこと等により1億9千7百万円減少し、155億7千3百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べて、建物及び構築物が増加したこと等により9千1百万円増加し、52億3千1百万円となりました。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1億6百万円減少し、208億4百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて、支払手形及び買掛金が増加しましたが、短期借入金、未払法人税等が減少したこと等により4億8千7百万円減少し、62億2千9百万円となりました。固定負債は、前連結会計年度末に比べて、退職給付に係る負債が増加したこと等により2千8百万円増加し、36億1百万円となりました。この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて4億5千9百万円減少し、98億3千1百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて、利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したこと等により3億5千2百万円増加し、109億7千3百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済は、新型コロナウイルスについては感染者数が減少傾向にあり、行動制限が緩和されつつありますが、中国における不動産の債務問題及び電力不足等による景気の減速や世界的な半導体不足により先行き不透明感が継続しております。

わが国経済は、新型コロナウイルスについてはワクチン接種の進展に伴い感染者数は減少傾向にあり、各種制限措置の緩和により、徐々に景気は持ち直していくものと見込まれます。また、製造業の設備投資は緩やかな回復基調にあり、プラスチック関連業界につきましても、需要は回復に向かうものと予想しておりますが、半導体不足の影響により製造業の減産や部品の供給不足が懸念されます。かかる環境下、当社グループにおきましては、引続き自動車関連業界における自動車の電動化、自動運転化、車体の軽量化等の動きや、ウイズコロナ、アフターコロナの環境下、社会の変化に伴うタブレット、PC、スマホ、VR等の通信機器拡大、AI、IoT、5G等のデジタル化推進の動きへの確に対応するとともに、既存市場、既存分野での販売拡大と収益力向上にも取り組み、年度計画の達成に注力してまいります。また、世界レベルでの環境問題（CO2削減、使い捨てプラスチックの削減）に対しては、お客様の生産現場や自社の事業活動及びお客様の製造物を通じて社会に貢献し、透明性の高い企業統治（コーポレートガバナンス）等を実現していくことで経営基盤の強化とESG経営を推進いたします。現時点におきましては、2021年5月11日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,667,557	7,035,826
受取手形及び売掛金	6,229,968	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	5,525,679
商品及び製品	712,893	557,860
仕掛品	778,524	889,665
原材料及び貯蔵品	1,189,917	1,211,973
その他	277,309	441,232
貸倒引当金	△84,926	△88,946
流動資産合計	15,771,244	15,573,292
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,085,835	2,127,018
土地	1,390,035	1,398,802
その他(純額)	521,794	517,806
有形固定資産合計	3,997,665	4,043,627
無形固定資産		
その他	455,966	507,119
無形固定資産合計	455,966	507,119
投資その他の資産		
その他	688,204	681,406
貸倒引当金	△1,510	△746
投資その他の資産合計	686,694	680,660
固定資産合計	5,140,327	5,231,407
資産合計	20,911,571	20,804,699
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,683,275	1,899,993
短期借入金	3,093,556	2,548,418
1年内償還予定の社債	37,500	37,500
未払法人税等	116,624	52,911
製品保証引当金	84,267	84,746
役員賞与引当金	45,377	—
その他	1,656,457	1,606,000
流動負債合計	6,717,059	6,229,571
固定負債		
社債	18,750	—
長期借入金	2,593,098	2,526,470
役員株式給付引当金	5,630	5,630
退職給付に係る負債	793,025	840,314
その他	162,758	229,237
固定負債合計	3,573,262	3,601,651
負債合計	10,290,321	9,831,222

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	977,142	977,142
資本剰余金	1,069,391	1,069,391
利益剰余金	8,384,664	8,437,706
自己株式	△133,654	△133,654
株主資本合計	10,297,544	10,350,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	111,190	133,254
為替換算調整勘定	19,159	291,332
その他の包括利益累計額合計	130,349	424,587
非支配株主持分	193,356	198,304
純資産合計	10,621,249	10,973,477
負債純資産合計	20,911,571	20,804,699

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	8,695,325	8,450,394
売上原価	6,409,021	6,068,697
売上総利益	2,286,303	2,381,696
販売費及び一般管理費	1,987,163	2,092,465
営業利益	299,139	289,231
営業外収益		
受取利息	5,532	4,740
受取配当金	4,996	5,241
為替差益	—	23,891
保険解約返戻金	13,739	2,676
助成金収入	8,799	14,814
その他	29,700	17,404
営業外収益合計	62,768	68,767
営業外費用		
支払利息	36,829	26,480
為替差損	31,294	—
その他	12,654	17,466
営業外費用合計	80,778	43,947
経常利益	281,129	314,051
特別利益		
固定資産売却益	546	973
特別利益合計	546	973
特別損失		
固定資産除売却損	128	0
投資有価証券評価損	2,094	10,072
子会社清算損	—	4,542
特別損失合計	2,223	14,615
税金等調整前四半期純利益	279,452	300,409
法人税、住民税及び事業税	173,152	61,640
法人税等調整額	△19,681	75,320
法人税等合計	153,471	136,961
四半期純利益	125,981	163,448
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	131,799	159,267
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,818	4,180
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,045	22,064
為替換算調整勘定	△108,279	272,940
その他の包括利益合計	△98,233	295,005
四半期包括利益	27,747	458,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,184	453,505
非支配株主に係る四半期包括利益	△14,436	4,947

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、収益の認識について主に次の変更が生じております。

①工事契約に係る収益認識

請負工事に係る収益の計上については、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りができない工事については、原価回収基準を適用しております。

②代理人取引に係る収益認識

一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高、売上原価ともに305,816千円増加しております。なお、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

また、収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	日本	東アジア	東南アジア	北中米	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)
売上高							
外部顧客への売上高	5,652,813	2,299,581	705,532	37,398	8,695,325	—	8,695,325
セグメント間の内部 売上高又は振替高	412,210	147,375	12,647	642	572,874	△572,874	—
計	6,065,023	2,446,956	718,179	38,040	9,268,200	△572,874	8,695,325
セグメント利益又は 損失(△)	580,333	△196,088	△62,116	△60,291	261,837	19,291	281,129

(注) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額(経常利益)との差額の主な内容は次のとおりであります。

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	261,837
セグメント間取引消去	19,291
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	281,129

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	日本	東アジア	東南アジア	北中米	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)
売上高							
外部顧客への売上高	4,803,175	2,730,218	825,653	91,345	8,450,394	—	8,450,394
セグメント間の内部 売上高又は振替高	283,497	275,313	7,629	3,368	569,808	△569,808	—
計	5,086,673	3,005,531	833,283	94,714	9,020,202	△569,808	8,450,394
セグメント利益又は 損失(△)	309,194	21,044	10,648	△35,879	305,008	9,043	314,051

(注) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額(経常利益)との差額の主な内容は次のとおりであります。

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	305,008
セグメント間取引消去	9,043
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	314,051

②報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方針に比べて、当第2四半期連結累計期間の「日本」の売上高、売上原価はそれぞれ42,201千円減少し、「東アジア」の売上高、売上原価はそれぞれ348,018千円増加しております。

3. その他

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。なお、北中米には生産拠点が存在しないため、記載しておりません。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
日本	4,638,699	△13.9
東アジア	2,805,473	86.3
東南アジア	229,017	1.1
合計	7,673,190	7.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は販売価格によっております。

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
日本	6,261,449	27.5	4,203,938	37.3
東アジア	3,589,469	87.2	2,526,982	60.3
東南アジア	851,269	38.2	405,018	57.0
北中米	108,588	152.3	61,422	105.1
合計	10,810,777	44.4	7,197,362	46.1

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
日本	4,803,175	△15.0
東アジア	2,730,218	18.7
東南アジア	825,653	17.0
北中米	91,345	144.2
合計	8,450,394	△2.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。